

学位被授与者氏名	余 健明（よ けんめい）
論文題目	Covered Interest Parity Deviation from Hedging Demand or Market Risk Factors: Evidence from the Japanese Financial Sector（金利カバーモデルの乖離はヘッジ需要か市場リスク要因か：日本の金融部門からの実証）
論文審査結果の要旨	<p>本論文の特徴と貢献は以下である。第一に、2007年以降のアメリカそして世界的な金融危機以降、CIPからの実際の為替レートの乖離（以下、CIP乖離と呼ぶ）が恒常化している様子に注目して、日本からの対外投資において、旺盛なヘッジ需要が続いていることが原因ではないかと、問題提起した点である。とりわけ、満期が長い先渡し取引において、CIP乖離が顕著であることから、VIX指数やオプションATMといった短期的なリスク要因と、長期ヘッジ需要を分けて分析した点は、高く評価できる。</p> <p>特徴と貢献の第二は、モデルの説明変数に、先行研究にはなかった日本所在銀行の対外資産・負債ポジションなどを含めた点である。その結果、有意な相関の検出がより精緻化されている。</p> <p>なお、被説明変数であるCIP乖離のデータとして、主成分分析によって各満期のデータを統合した点は、先行研究に依拠しているものの、その有効性をさらに掘り下げて説明する必要があったといえよう。また、金融機関の対外「進出」を長期ドル需要の要因として挙げているものの、対外資産負債残高のデータは基本的に属地主義であり、金融機関の対外「投資」をむしろ強調したほうが、データとの整合性は高かったと思われる。</p> <p>とはいえ、それらは本論文の意義とクオリティを少しも損なうものではない。本論文は、問題の設定、研究の意義、分析のオリジナリティのいずれにおいても、修士課程の水準を十分に達成していると判断できる。</p> <p>2024年2月22日に、北九州市立大学北方キャンパス3号館3-324教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して、論文の説明と質疑応答によって学力を確認し、全員一致で当該論文が修士（経済学）の学位に値する内容であると判定した。</p>